

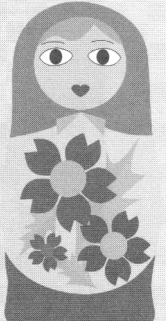
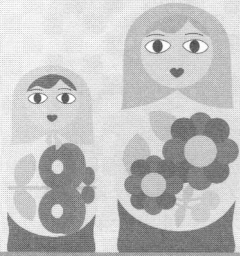


# プリローダ

64・65  
第 合併号  
(NPO 第16号)

【ПРИРОДА】プリローダ＝ロシア語で「自然」という意味をあらわす

発行：2017年12月5日



むさしの・多摩・ハバロフスク協会は、東京都武蔵野市で生まれた、「寒帯林保全」、「自然体験活動」、「国際交流」などを行う NPO 法人です。

## 2018 年植林ボランティアツアー in ハバロフスク 先行応募 開始！

### ハバロフスク市民とともに市制 160 周年を祝いませんか？

毎年恒例のボランティア植林ツアーですが、来年はハバロフスク市制160周年記念で160本の樹木をハバロフスク市民とともに植える予定です。このたびハバロフスク市役所の全面的なバックアップをいただいて実施できる運びとなりました。

そこで、会員のみならずには一般公募に先行して応募を開始いたします。例年、ロシアに興味のある方、ロシア民謡が好きな方、ロシア語を勉強している大学生、環境について研究している学生など多彩なメンバーが集まって下さいます。

日程は、例年より少し短い5泊6日で、**2018年5月1日(火)～6日(日)**になります。現在進行中のシカチ・アリャン地区の植林(1.0ha, 3年生苗木3000本予定)はもちろんのこと、太平洋国立大学構内でも記念植樹を実施します。現地の多くの青少年も参加予定で、昼食を囲んで懇談も行います。

募集人員は15名ですので、同封のチラシをご覧ください、お早めにお申し込み下さい！



現地の小・中学生も参加してくれたシカチ・アリャンにおける植林(2017)

# 2017植林ボランティアツアーinハバロフスク報告

期間：2017年4月30日（日）～5月6日（土）

参加者：一般12名、大学生6名、スタッフ5名

通訳：ウラジミル・オルロフ

コーディネータ：エレナ・チェルニコワ

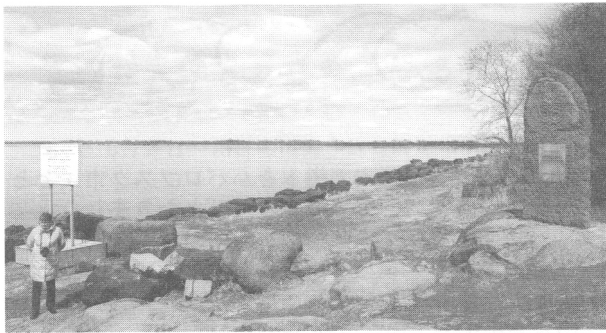
今回のツアーでは、NPO法人になってからは初めて、シベリア鉄道に乗ってウラジオストクまで足をのばしました。しかし、例年通り植林作業もしっかり行い、2013年のアムール河大洪水で被害を受けたシカチ・アリャン地区（少数先住民ナナイ人村）での新しい植林を開始しました。この村のニーナ村長や子どもたちをはじめ、前年まで植林を行っていたトロイツコエの環境学校の子どもたちも参加しての多人数の活動となりました。日本からも大学生が多く参加してくれたので、ずいぶん平均年齢の低い、楽しい植林作業となりました。この時の新しい宿泊地のレスナヤ・ポリャナは、森の中の静かな保養地で、金正日が生まれたと言われていたヴィヤツコエ村にありました。

太平洋国立大学では当ツアーに合わせて環境フォーラムが開催され、武蔵野大学工学部環境システム学科の磯部孝行先生が「日本の住宅における低炭素化の実現性」の発表を、同学科の吉竹勇太郎さんが「持続可能な都市と地方一過疎化した地域社

会を持続可能にするための若者の役割」の発表を行いました。大学構内に2013年に植えたフジザクラとエゾヤマザクラは無事に育っており、小さなつぼみがいくつつあっていました。

ハバロフスク市内の植林は、アムール河沿いのウチョースと呼ばれる岸壁下でハバロフスク地方政府教育副大臣臨席のもと実施されました。今まで、2～3年生のチョウセンゴヨウばかりを植えてきたので、12年生以上の大きく立派なチョウセンゴヨウを植えるのは大変でしたが、それは大変醍醐味のあるものでした。

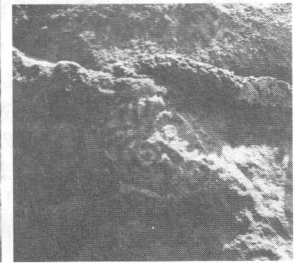
期待のシベリア鉄道では、貸切の1等寝台の乗り心地は良く、一夜明けると、まだ寒かったハバロフスクから一変、春が訪れているウラジオストクの街並みが出迎えてくれました。2012年のAPECサミット開催の際に空港が新設され、道路や橋も整備された大変きれいなルースキー島を訪れ、新植林地の検討やロシア最大といわれる水族館の見学もしました。



シカチ・アリャンの岩絵現場



シカチ・アリャンの岩絵記念碑前で



1万2000年前?!  
との話がある岩絵



「友好の森V」となるシカチ・アリャンにおける植林

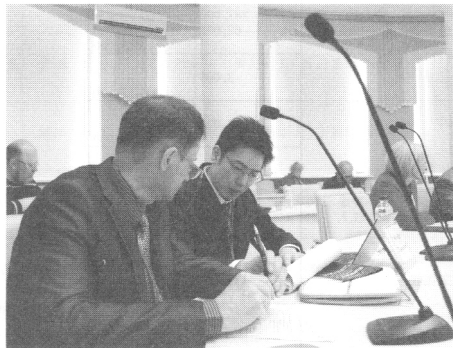


太平洋大学構内のフジザクラ（手前）





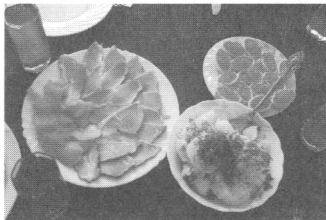
ハバロフスク地方政府教育副大臣も参加して下さったアムール河沿いの記念植樹



太平洋国立大学における環境フォーラムに参加



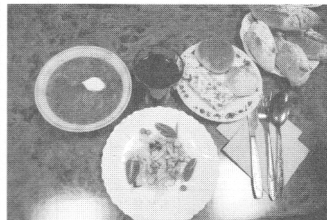
武蔵野大学の磯部先生と吉竹さんが発表



ツアー中の食事各種



ヴァツコエ村の宿舎では大きな川魚の姿焼きも



ハバロフスク市内では高級レストランも体験



シベリア鉄道に乗車して訪れたウラジオストク



ウラジオストク ルースキー島で昨年秋開館の水族館を見学



アルセーニエフ記念沿海州総合博物館を見学



海軍学校の火守の交代式

# 平成29年度 総会資料

2017年6月4日14時より、かたらいの道・市民スペースにおいて、平成29年度の定期総会を行い、無事にすべての議案が承認されましたので、ご報告致します。

書式第12号 (法第28条関係)

議案第1号

## 平成28年度 事業報告書

平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで  
特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

**1 事業の成果**

本年度も、ひとつひとつの中身が濃い、充実した事業展開を行うことができた。特に植林事業や緑の少年団事業では、日本とロシアで多くの協力者やスタッフにめぐまれた。また太平洋国立大学へ日本の学生を派遣する事業も無事実施することができた。

設立20周年事業では、多くの会員の方々に集まって頂いた。

**2 事業の実施に関する事項**

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
2016植林ボランティアツアー事業	緑の募金国際緑化2016.5.1～直接事業の補助を受2016.5.8けて、植林活動を行った。		ロシア極東ハバロフスク地方	4	延べ150	6639
共催：太平洋国立大学学生派遣事業	植林でお世話にな2016.10.11～っている大学への日2016.10.16本の大学生派遣を日露青年交流センターと共催で行った。		太平洋国立大学ほか	2	日本人学生15名およびロシア人学生	461
委託・緑の少年団国際交流事業	国土緑化推進機構2016.8.2～の委託を受けて行っ8.9た。		赤城・東京	16	70	2204
委託・緑の少年団報告書作成事業	国土緑化推進機構2016.8～12の委託を受けて、報告書編集およびDVDの作成を行った。			3	150	920
ブリーダ(広報紙)発行事業	広報紙を発行して広く活動を紹介した。	2016.12.1		3	会員ほか広く500	65
設立20周年事業	協会設立20周年を祝2016.6.26い、祝賀会を開催した。		武蔵野インテグホール	10	80	247

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額(千円)

## 平成28年度 監査報告書

平成28年度「特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会」

収入支出決算書および事務執行については、平成29年5月31日に監査に付され、帳簿・領収書ならびに関係書類を照合した結果、決算の計数は正確なものであり、また、事務は適正に執行されていることを認めます。

平成29年5月31日

監事 落合 恒 

監事 高橋 善数 

書式第13号 (法第28条関係)

議案第2号

## 平成28年度 活動計算書

平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会  
(単位：円)

科 目	金 額	
<b>I 経常収益</b>		
1 受取会費		
会費収入	281,000	
設立20周年記念事業収入	62,000	343,000
2 受取寄付金	3,000	3,000
3 受取助成金等	3,000,000	3,000,000
4 事業収益	3,690,000 2,160,000 980,000 462,344	7,292,344
5 その他収益	6 124,150	124,156
経常収益計		10,762,500
<b>II 経常費用</b>		
1 事業費		
(1) 人件費	933,000	
作業日当	933,000	
人件費計		
(2) その他経費	1,565,113	
植林費等	81,812	
会場費	2,467,605	
旅費交通費	623,696	
宿泊費	1,023,209	
食費	40,502	
通信運搬費	514,099	
通訳翻訳費	615,101	
消耗品費	1,052,170	
印刷費	9,380	
交際費	7,271	
謝金	747,884	
手数料	27,795	
施設利用料	261,628	
保険料	257,757	
雑費	710	
公租公課	200	
その他経費	307,212	
その他経費計	9,603,144	
事業費計		10,536,144
2 管理費		
(1) 人件費	0	
作業日当	0	
人件費計	0	
(2) その他経費	29,271	
旅費交通費	49,457	
通信運搬費	13,888	
接待交際費	32,743	
消耗品費	17,132	
印刷費	5,520	
会議費	65,464	
手数料		
雑費		
公租公課		
広告費		
H P管理費		
その他経費	213,475	
その他経費計		213,475
管理費計		213,475
経常費用計		10,749,619
<b>III 経常外収益</b>		
当期経常増減額		
<b>IV 経常外費用</b>		
経常外費用計		
税引前当期正味財産増減額		12,881
法人税、住民税及び事業税		2,020,859
当期正味財産増減額		2,033,740
前期繰越正味財産額		
次期繰越収支差額次期繰越正味財産額		



## 平成28年度 年間役員名簿

平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事長	安藤 栄美	東京都武蔵野市吉祥寺東町1丁目15番25号	平成28年4月1日 ～29年3月31日	なし
副理事長	北爪 達也	東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎2273番地30	平成28年4月1日 ～29年3月31日	なし
副理事長	田崎 桂子	東京都小金井市東町1丁目17番6号	平成28年4月1日 ～29年3月31日	なし
副理事長	依田 和也	東京都府中市美好町1丁目11番地の2	平成28年4月1日 ～29年3月31日	なし
理事	武川 俊二	神奈川県座間市相模が丘3丁目53番7号	平成28年4月1日 ～29年3月31日	なし
理事	永田 秀樹	東京都武蔵野市境南町5丁目1番20号	平成28年4月1日 ～29年3月31日	なし
理事	長村 康司	東京都武蔵野市吉祥寺南町5丁目8番16号	平成28年4月1日 ～29年3月31日	なし
監事	高橋 善教	東京都町田市鶴川2丁目15番地2の105	平成28年4月1日 ～29年3月31日	なし
監事	落合 恒	東京都武蔵野市境5丁目2番23号	平成28年4月1日 ～29年3月31日	なし

## 平成29年度事業計画(案)

平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

## 1 事業実施の方針

植林活動においては、友好の森Vとしてシカチ・アリヤン地区への実施を開始しており、地球温暖化防止および溶存鉄生成のための寒帯林保全に努める。また、国土緑化推進機構の委託を受けて、緑の少年団国際交流事業を行い、日露児童青少年の国際交流・自然体験の支援を行い、報告書作成事業も請け負う。さらに、大学間交流として、太平洋国立大学と武蔵野大学のコーディネートを行い交流の輪を広げていく。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の予定額(千円)
2017植林ボランティアツアー事業	緑の募金国際緑化直接事業の補助を受けて、植林活動を行う。	2017.4.30～ 2017.5.6	ロシア極東ハバロフスク地方	3	どなたでも 延べ150	5510
太平洋国立大学との交流事業	植林でお世話になっている大学の日本招へい事業のコーディネートを行う。	2017.10.11～ 2017.10.16	太平洋国立大学・武蔵野大学ほか	3	ロシア人学生 招へい15名 ほか50名	100
委託・緑の少年団国際交流事業	国土緑化推進機構の委託を受けて行う。	2017.7.31～ 8.6	ハバロフスク市内	3	70	2160
委託・緑の少年団報告書作成事業	国土緑化推進機構の委託を受けて、報告書編集およびDVDの作成を行う。	2017.8～12		3	150	900
プリローダ(広報紙)発行事業	広報紙を発行して広く活動を紹介する。	年間2回		3	会員ほか広く 500	50

## (2) その他の事業

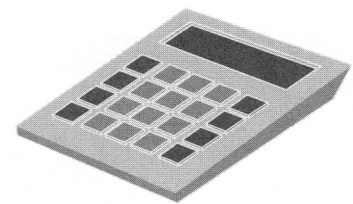
事業名	事業内容	実施予定日時	実施場所	従事者の予定人数	事業費の予定額(千円)

特定非営利活動法人  
むさしの・多摩・ハバロフスク協会 顧問名簿

平成28年度の「特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会」の顧問は、下記のとおりとする。

平成29年3月31日現在

	氏名	就任日
顧問	秋山 智英	平成 21年 4月 18日
顧問	土屋 正忠	平成 21年 4月 18日
顧問	稲葉 孝彦	平成 21年 4月 18日
顧問	木村 日出夫	平成 21年 4月 18日
顧問	中野 哲夫	平成 21年 4月 18日
顧問	長島 昭	平成 23年 6月 26日
顧問	田村 俊介	平成 25年 6月 20日



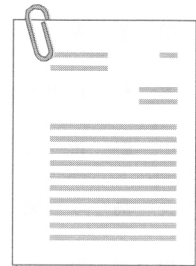
\* すべての議案は承認され(案)の文字は、はずされました。

議案第5号

書式第15号(法第28条関係)

平成29年度 活動計画書予算(案)			
平成29年4月1日から		平成30年3月31日まで	
特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会			
(単位:円)			
科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費	正会員受取会費 賛助会員受取会費	150,000 150,000	300,000
2 受取寄附金	受取寄附金 施設等受入評価益	30,000	30,000
3 受取助成金等	植林補助金	3,000,000	3,000,000
4 事業収益	植林事業収益 緑の少年団事業収益 緑の少年団報告書作成事業収益	2,550,000 2,160,000 980,000	5,690,000
5 その他収益	受取利息 雑収入	100 900	1,000
経常収益計			9,021,000
II 経常費用			
1 事業費	(1)人件費 人件費 作業日当 人件費計	500,000 500,000	
	(2)その他経費 植林経費 会場費 旅費交通費 宿泊費 食費 通信運搬費 通訳翻訳費 消耗品費 印刷費 交際費 会議費 材料費 謝金 手数料 施設利用料 保険料 雑費 書籍購入料 公租公課 その他経費計	1,600,000 30,000 1,500,000 900,000 1,000,000 100,000 600,000 470,000 800,000 50,000 10,000 13,000 900,000 45,000 50,000 140,000 10,000 0 2,000 8,220,000	8,720,000
2 管理費	(1)人件費 人件費 作業日当 人件費計	0 0	
	(2)その他経費 会場費 旅費交通費 通信運搬費 消耗品費 印刷費 交際費 会議費 手数料 雑費 書籍購入料 公租公課 その他経費計	10,000 10,000 50,000 40,000 100,000 10,000 15,000 54,000 2,000 10,000 0 301,000	301,000
経常費用計	管理費計		301,000
III 経常外収益	当期経常増減額		9,021,000
IV 経常外費用			
経常外費用計			
税引前当期正味財産増減額			0
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			0
前期繰越正味財産額			2,033,740
次期繰越収支差額 次期繰越正味財産額			2,033,740

平成28年度 貸借対照表			
平成29年3月31日現在			
特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会			
(単位:円)			
科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	1,903,357		
預金(ゆうちょ銀行)	181,186		
預金(東京三菱UFJ銀行)	729,868		
前払植林事業費	3,136,395		
前払緑の少年団事業費	1,934		
流動資産合計		5,952,740	
資産合計			5,952,740
II 負債の部			
1 流動負債			
前受会費	98,000		
前受植林事業収入	2,231,000		
前受補助金収入	1,500,000		
未払金(植林・少年団、安藤分)	90,000		
流動負債合計		3,919,000	
負債合計			3,919,000
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,020,859	
当期正味財産増減額		12,881	
正味財産合計			2,033,740
負債及び正味財産合計			5,952,740





# 委託事業 2017緑の少年団国際交流事業

2017年7月31日(月)～8月6日(日)において、ハバロフスク郊外アムール河のほとりの「ザイムカ」において緑の少年団国際交流事業inハバロフスクが開催されました。

初日は成田空港近くのホテルに山形・長野・群馬・神奈川・三重・岡山・鹿児島県から緑の少年団20名の小・中学生と指導者2名が集まり結団式を行いました。この時、東京外国語大学の田河紗英さんがロシア語レッスンの講師を務めてくれました。

今回は(公社)国土緑化推進機構の青木正篤常務を団長にスタッフ4名が同行、当協会からは安藤栄美理事長に加え、三浦和真さん(武蔵野市子ども協会勤務)と日比野勲さん(成蹊大学ボランティア支援センター勤務)がお手伝いをして下さいました。

到着したハバロフスク空港では、植林でお世話になっているスヴィンキン・ユリー前森林管理副局長が通訳のオルロフ・ウラジミールさんとコーディネータのチェルニコワ・エレナさんとともに迎えてくれました。

交流場所の宿泊先の「ザイムカ」は、2011年の第1回開催時にも利用した懐かしい場所でした。ここでは、太平洋国立大学教育学部の学生のモスノワ・マリアさん、サフォノワ・ナタリアさん、チャワイロ・イリナさん、アントノフ・イグナトさんとロシア留学中の東京外国語大学の内田桃佳さん、田上陽菜さんが通訳補助として子どもたちの生活面もサポートしてくれました。

ザイムカには船着き場が併設されており、アムール河遊覧船に乗り、中国との国境である中洲近くまで行くことができました。

ロシアスタッフもデニソフ・イワン森林管理局長をはじめ大勢のみなさんがお忙しい業務の中、交流事業に関わって下さいました。

交流は、記念植樹・活動発表会・環境に関するグループ対抗合戦・ゲームなど盛り沢山で、毎日夜遅くまで楽しみました。

「ロシアの伝統的な生活を知る家」を訪れた際には、2014年の同交流で訪日したデネコ・イリナ教育部長(国立自然保護区)が説明して下さいました。イリナ部長は熱烈歓迎して下さい、伝統的衣装を子どもたちに着せてくれたり、数々の昔の道具や楽器の紹介とマトョーシカの色付けの指導をして下さいました。この教育施設は、植林ボランティアツアーで何度も訪れた大ヘフィツル自然保護区に隣接している場所でした。

交流最終日には、郷土史博物館を見学してハバロフスク地方の自然や歴史などを学び、さよならパーティーではコサックの伝統的な結婚식을再現するサプライズもありました。翌日には、飛行機内で「静かにして!」を連発しながら、元気な参加者を無事に保護者にお渡しして事業を終了しました。



ロシア語講師の田河さん



ビデオ担当 日比野さん



オルロフ通訳とデネコ教育部長



コーディネータのエレナさん



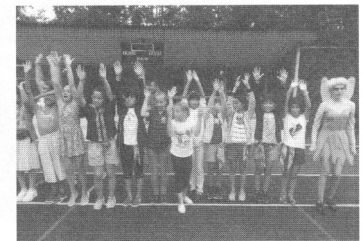
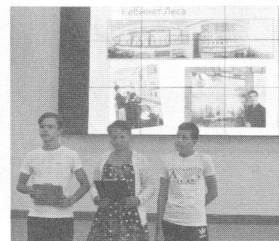
イリナさん オルロフさん イグナトさん  
内田さん ナタリアさん 田上さん マリアさん



対面式でのレセプション



結婚式?!の田上さんと三浦さん



## ももかの留学体験記

私はハバロフスクの国立交通大学に2017年4月から6月の半年間留学しました。大学はハバロフスクの中心から少し離れたところにあり、静かで勉強に集中できる環境でした。寮から大学まで5分、マーケットまで20分。バスも市内を循環しており、街自体もこじんまりとしているので徒歩でもいろいろな場所に行くことができ、生活しやすい街だなと感じていました。

留学前半の授業は週5日、1日3時限、みっちりロシア語で行われました。中盤はサマースクール、ボランティアに参加、後半はロシアの学生と同じように学部の授業を受けてきました。授業で印象に残っているのは、座学と実習（プレゼンテーションや実験）がセットで1つの科目になっていること。教授から教わるだけでなく、学生が自主的に調べ発表する機会が日常的にあることに驚きました。

この半年間の一番衝撃的だったことは、「お湯が出ない」事件です。「お湯が出ない」だけでは海外あるあるでしょう。しかしハバロフスクは一枚上手でした。忘れもしない、帰国間近の9月中旬。秋が顔を出し始めた肌寒い日。一日の疲れを暖かいシャワーで流そうと蛇口をひねる。…出ないのです。お湯、ではなく、水自体が!! 市のサイトにも情報はなく「市内の暖房供給のために街全体で配水が止まる。いつ始まるか、いつ終わるか、水道局の人間さえ知らない」との回答が。年2回あるそうなので、ハバロフスクの寮で暮らす予定の方は覚悟してください。

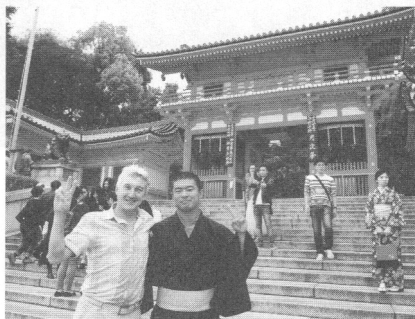
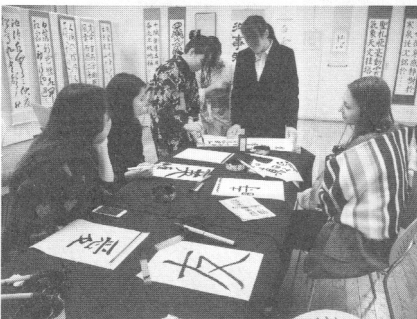
お湯さえ出ないときは衝撃を受けましたが、それ以外はとても楽しく、学ぶことも多い留学生活でした。言語がわからなくても「伝えたい」「わかりたい」という気持ちさえあれば仲良くなれること、言語がわかればさらに互いを理解し交流できること。思っていることは言わないと伝わらない、自分の思いを表現することの大切さ。そして図々しいと感じるくらいに積極的に行くことで開く新しい世界。言語がわからず文化も違う見知らぬ土地で暮らすのは不安なことも多いですが、私は留学をしてよかったと思います。言語も文化も違うけれど、根本ではみんな同じなのだなど実感しました。

(東京外国語大学 内田桃佳)



## 武蔵野大学と日露青年交流センター共催のロシア太平洋国立大学等学生招へい事業

2017年10月8日～15日に実施された表記事業で、植林ボランティアツアー等でお世話になっている太平洋国立大学自然利用・環境学部のパール・リャブヒン学部長を団長とした15名の学生を日本にお迎えすることができました! 当協会はコーディネートを務め、東京外国語大学訪問や京都案内、武蔵野大学摩耶祭見学等のお手伝いをしました。通訳補助として、太平洋国立大学卒のイサコワ・クリスティナさん、東京外国語大学の内田桃佳さん・田河紗英さんが活躍してくれました。



### プリローダ 第64・65合併号

発行日 平成29年12月5日  
発行 NPO法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会  
住所 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-15-25  
TEL/FAX 0422-23-5351  
E-mail mail@mtxa.org  
URL http://mtxa.org/  
発行人 安藤 栄美  
編集 田崎 桂子  
広報委員 依田和也、北爪達也、永田秀樹、木崎 剛、落合 恒、  
内田 央、内田 周  
印刷 巧芸印刷(株)

### 編集後記

今回は、64号と65号の合併号としての発行となりました。5月の植林、8月の緑の少年団に続き、10月には武蔵野大学と日露青年交流センター共催のロシア太平洋国立大学等学生招へい事業のコーディネータを務め、あつという間の一年でした。

悲しいお知らせですが、当協会が大変お世話になったスピリドノフ・セルゲイ（大ヘフィツール自然保護区）所長が本年2月にご病気でお亡くなりになられたことを伺いました。心からご冥福をお祈りしたいと思います。